

◆ ただひたすらに ◆

1本の「たすき」をただひたすらに繋ぐ駅伝競技。

日本陸上競技連盟駅伝競走規準「第9条 たすき」には「1. 駅伝競走はたすきの受け渡しをする。(以下略)」とあり、これ以後もたすきについての項目が並ぶ。

NHK大河ドラマ「いだてん」では箱根駅伝開催へ至る経緯が丁寧に描かれ、その後数多くのエピソードが生まれる。

この12月3日、冬晴れの絶好のコンディションの下、43回目となる本校の「駅伝競走大会」を実施した。周年記念誌を見ると、1979（昭和54）



年12月22日、「第1回マラソン大会実施」とある。1982（昭和57）年に「校内駅伝大会」と名称を変更し現在に至るが、この間中断することなく連綿と続けられてきた。

女子は5区間（総距離6.9km）、男子は6区間（総距離7.7km）。各クラスの代表選手がひたすらにたすきをつなぐ。感染症対策のため、沿道の応援は関係する生徒と教職員のみ。ライブ配信を行い、多くの生徒は教室で応援する形をとった。

スタートのピストルを撃たせてもらった後、校門近くでレースの様子を見守る。

準備してくれた陸上部の生徒の皆さんの声援が飛ぶ。それに呼応したかのように最後の力を振り絞る。箱根の駅伝大会さながらに、ラストスパートで順位が入れ替わることもある。懸命に何事かを成し遂げようとする姿には崇高ささえ漂う。



この大会、印象に残っているシーンがあった。

下位のクラスのランナーがゴールまでもう少しというところで、ある先生が声をかけた。

「もう少しだ。…どうもありがとう…」

頑張れではなく感謝の気持ちを伝える。涙が出そうになった。

この行事、もちろん賞品は“あんパン”である。